緊急地震速報を利用した避難訓練の手引き

熊 本 地 方 気 象 台
熊 本 県 教 育 委 員 会

目　次

１．はじめに－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－ －－－－－（P2）
２．緊急地震速報とは －－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－（P3）
３．緊急地震速報を聞いたら －－－－－－－－－－－－－－－－－（P4）
４．緊急地震速報を利用した避難訓練 －－－－－－－－－－－－（P6）
５．緊急地震速報を利用した避難訓練のシナリオ－－－－－（P9）
６．緊急地震速報を利用した避難訓練実施計画例　－－－（P10）
７．緊急地震速報等に関する質問や問い合わせ　－－－－（P11）

はじめに

平成２３年３月１１日に発生した東北地方太平洋沖地震では、広い範囲で甚大な被害が発生し、改めて地震や津波災害の恐ろしさを目の当たりにしました。地震が発生した際には、即座の適切な行動が命を守ります。そのため、緊急地震速報を利用した避難訓練の実施は、児童生徒の安全を確保する上で有効な取組みです。

熊本地方気象台と熊本県教育委員会は、連携して学校における防災教育の取組みを支援しています。その取組みの一つとして、日頃から緊急地震速報を利用した避難訓練が効果的に行えるよう「緊急地震速報を利用した避難訓練の手引き」を作成しました。

各学校におかれましては、この手引きに沿って緊急地震速報を積極的に取り入れていただきますようお願いします。また、訓練を効果的に進めることができるように、訓練用の報知音（ＣＤ）を添付しています。これも御活用いただきますようお願いします。

平成２４年１１月

熊本地方気象台
熊本県教育委員会

1. 緊急地震速報とは

緊急地震速報とは、地震発生直後に震源に近い地震計で捉えた観測データを解析して、震源や地震の規模を直ちに推定し、まだ強い揺れ(主要動)が到達していない地域の震度や到達時刻を可能な限り素早くお知らせするものです。
(予測震度が5弱以上のときに震度4以上の揺れとなる地域に発表されます)

緊急地震速報を見聞きしたら　⇒　身を守る行動をとる

【緊急地震速報の留意点】
・地震の予知ではなく、地震による揺れを予測する情報です。
・震源に近いところでは、速報が強い揺れに間に合いません。
・予測震度が±1程度の誤差があります。
　上記の特性や限界を十分理解頂いて利用していただくことが重要となります。

地震による揺れを感じたら、緊急地震速報の有無にかかわらず、まず身の安全を確保することが基本です。

2. 緊急地震速報を聞いたら(１)

学校では

- 机の下などにかくれて、机の脚を持ち体をまもる
- 揺れがおさまったら、先生の指示にしたがって避難する

2. 緊急地震速報を聞いたら(２)

家庭では

- 頭を保護し、じょうぶな机の下など安全な場所に避難する
- あわてて外へ飛び出さない
- むりに火を消そうとしない

人が大勢いる施設では

- 係員の指示にしたがう
- あわてて出口に走り出さない

屋外(街)では

- ブロック塀の倒壊に注意
- 看板や割れたガラスの落下に注意

鉄道・バスでは

- つり革、手すりにしっかりつかまる

エレベーターでは

- 最寄りの階に停止させすぐにおりる

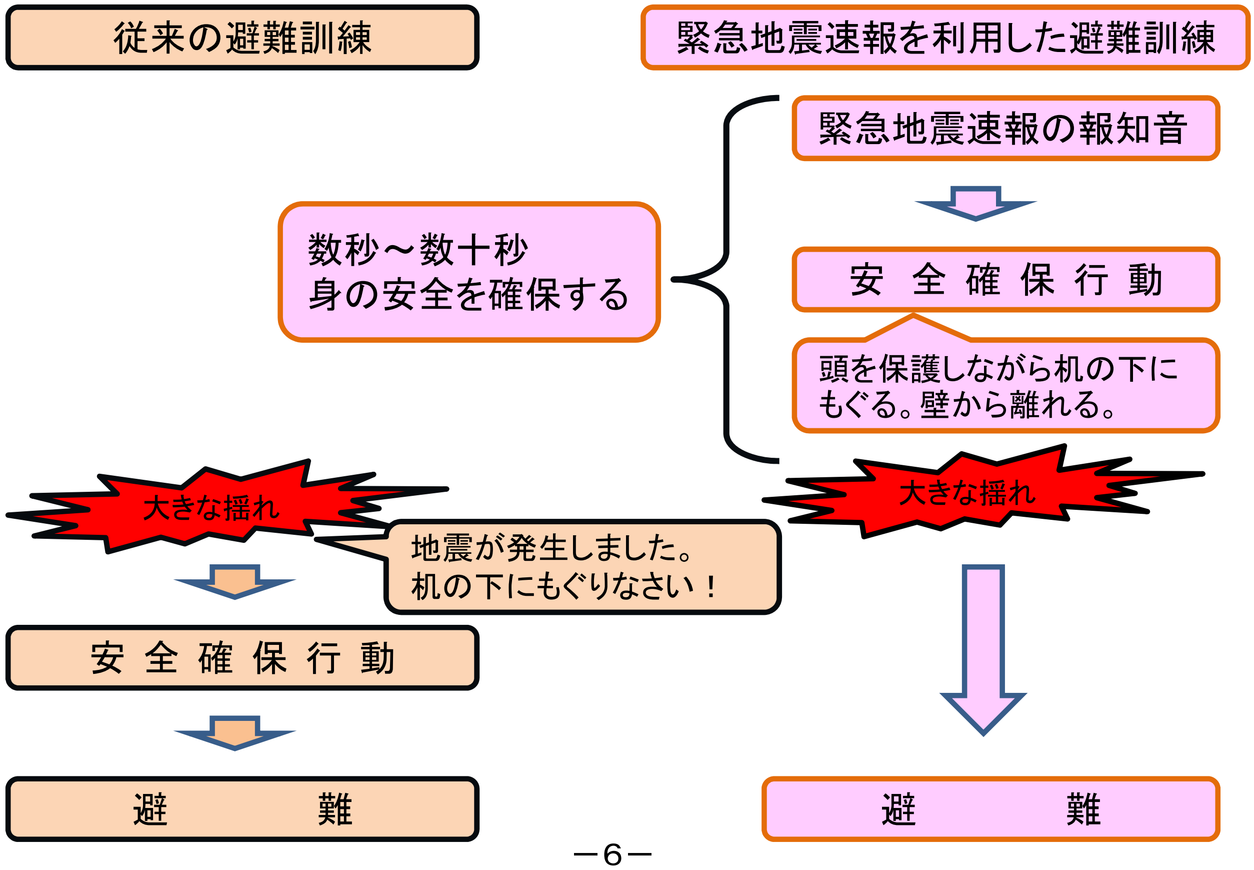
3. 緊急地震速報を利用した避難訓練（１）

－訓練の目的－

緊急地震速報を見聞きした時に、身の安全を守る行動を身につける。

・緊急地震速報を見聞きしてから強い揺れがくるまでの時間は数秒から数十秒しかありません。その短い間に、あわてずに身を守るなど適切な行動をとるためには日ごろからの訓練が必要です。

・緊急地震速報を利用した避難訓練の積み重ねにより、地震が来る前の数秒間の安全確保行動が身につき、それが先生の指示を待たずに自ら安全確保ができる主体的な行動の育成につながります。



3. 緊急地震速報を利用した避難訓練（２）

－避難訓練の事前学習－

目的

緊急地震速報を利用した避難訓練を実施する児童生徒に、緊急地震速報に関する正しい知識や緊急地震速報の報知音を見聞きした際の退避行動について事前に学習し、学校全体の防災意識の向上と避難訓練の充実を図る。

学習例

（1）地震及び津波について
- 過去の地震や津波について説明し理解を深める
- 緊急地震速報の仕組みを理解する

（2）本日の避難訓練について（確認事項）
- 緊急地震速報の報知音を利用した訓練の流れ
- 緊急地震速報の報知音を確認
- 報知音を聞いた時の行動を確認
- 学校以外で報知音を聞いた時の行動を確認
- 報知音を見聞きせずに揺れた時の行動を確認

（3）ビデオを利用した学習
- ビデオを上映する

（気象庁広報用DVD「津波から逃げる」本編17分）

事前学習の様子

ビデオ（DVD）のジャケットデザイン

3．緊急地震速報を利用した避難訓練（3）

－避難訓練の様子－

緊急地震速報アラーム

「緊急地震速報」のアラーム音が鳴ったら、 机の下にかくれる。

数秒～数十秒後に強い揺れ

揺れが収まるまで
机の下にかくれる。
このとき机の脚を
持つこと。

揺れが収まったら先生の指示に従ってグランドなどに避難する。

緊急地震速報を利用した小学校の訓練風景

4. 緊急地震速報を利用した避難訓練のシナリオ

経過 時間	所要 時間	訓練内容
		事前学習
		訓練開始
0:00:00	10秒	緊急地震速報が発表されます。 緊急地震速報アラーム音 「(アラーム音♪)緊急地震速報です。強い揺れに警戒してください。」 「(アラーム音♪)緊急地震速報です。強い揺れに警戒してください。」
アラームが鳴りましたら、 それぞれの場所で机の 下に隠れる、頭を保護 する等の対応行動をとる		**先生の対応**・・・・・・・・児童への指示 ・ドアを開け、通路の確保 ・机の下に避難 **児童・生徒の対応**・・・安全確保(机の下に隠れる等) ・退避状態のまま次の指示を静かに待つ
0:00:11	7秒	安全確保行動継続(無音期間)
0:00:17	20秒	激しい揺れが始ります。 強い揺れを表わす効果音 「非常に強い揺れです。あわてずに安全な場所で頭を保護するな ど身の安全を確保してください」
0:00:40		揺れは収まります。 強い揺れを表わす効果音停止 「揺れが収まりました。避難行動を開始してください」
		避難行動開始

5. 緊急地震速報を利用した避難訓練実施計画例

緊 急 地 震 速 報 に よ る 避 難 訓 練 実 施 計 画

平成〇〇年〇〇月〇〇日
〇〇〇〇〇立〇〇〇学校

1 期 日 平成〇〇年〇〇月〇〇日（〇） 第〇校時
〇〇：〇〇～〇〇：〇〇 小雨決行

2 目 的
・緊急地震速報が出た際に自ら命を守るためにはどうすればよいか考え、正しい避難の行動を身につける。
・児童一人一人の防災意識の向上と地震発生時における事故の防止を図る。
・避難訓練を通して、安全に避難する方法や順序を体得させる。

3 重 点
・児童は放送や先生の指示をしっかりと聞き、静かに安全に行動できるようにする。
・避難経路を確認し安全に避難できるようにする。
・児童の防災意識を高めるようにする。
・教職員は児童の安全誘導を優先する。

4 避難訓練

〇〇：〇〇 訓練の事前学習

〇〇：〇〇 緊急地震速報アラーム音を聞いて、机の下に隠れる。
【10秒後地震発生（強い揺れを表わす効果音が流れる）】
効果音が終わり、避難の放送が流れる
【地震がおさまりました。先生の指示に従って落ち着いて避難しましょう】

〇〇：〇〇 避難行動開始
【廊下に出て並ぶ。上履きのまま避難場所へ避難】

〇〇：〇〇 避難場所に集合
【学級またはグループ毎に人員点呼。責任者に報告】

〇〇：〇〇 避難完了

〇〇：〇〇 講評
【担任または校長先生の話を聞く】

６．緊急地震速報等に関する質問や問い合わせ

　緊急地震速報やこれを利用した避難訓練、その他以下のようなご質問やご要望などありましたら、お気軽に熊本地方気象台へお問い合わせください。

・この手引きに関するご質問。
・緊急地震速報を利用した訓練を一度気象台に見てもらいたい。また、訓練の事前学習、講評などがほしい。
・訓練の時に地震や津波の講話を気象台にお願いしたい。
・地震や津波の他、大雨や台風などについても教えてほしい。
・その他、気象全般に関すること。

【問合せ先】
熊本地方気象台　防災業務課
熊本市西区春日2－10－1　熊本地方合同庁舎12F
TEL096-324-3283　　FAX096-352-7847